

日本工学院専門学校	開講年度	2019年度	科目名	ミュージックリテラシー 4	
<b>科目基礎情報</b>					
開設学科	コンサート・イベント科	コース名	全コース	開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数	30時間
単位数	2単位			授業形態	講義
教科書/教材	内容に応じて資料を配布する。				
<b>担当教員情報</b>					
担当教員	研井陽介	実務経験の有無・職種	有・アーティストマネージャー		
<b>学習目的</b>					
<p>プロダクション・アーティストマネージャーの立位置から、「音楽の著作権」を再度解説し、音楽業界での即実践を目標とした講義。講師自身の体験例・最新の実例を織り交ぜながら、学生が著作権といった難しい法令に基づいた内容を丁寧に分かりやすく、興味の幅を広くし、理解出来ることを目的とする。音楽業界で働く際に必要となる知識であり、全ての作品においてどういった権利が発生しているのかを考察し、判断できることを目的とする。また、エンターテインメントの基軸となる「映画の著作権」「絵画の著作権」「プログラムの著作権」の解説も行い、これにおいても理解する。</p>					
<b>到達目標</b>					
<p>1年次に履修した「ミュージックリテラシー1・2」と合わせて、実践的な理解が出来る。この講義を受講することで目に見えないビジネススタイルのひとつとして「知的財産ビジネス」が存在する事を理解することが出来る。また目標を達成するために、一線で活躍するゲストの話を聞くことにより、より深く理解することが出来る。</p>					
<b>教育方法等</b>					
授業概要	この授業では、口頭による説明と黒板への板書を用いて、講義を進め、理解を深める。また実際の実例を用いて、どんな作品を扱う際に、どんな仕事で、どんな考えが必要になり、なにに注意をしなければいけないのかを実際に理解出来ることを目指す。授業内に出てくる言葉なども難しいものも多いが、ひとつずつ用語の理解もし、授業内容をしっかりと理解出来ることを目指す。				
注意点	この授業では興味も持ちにくい内容であっても、積極的に話を聞く心構えと、著作権の大切さを理解しながら受講すること。講師が話している際はしっかりと聞き、必要なことをメモを取ること。受講中の態度はしっかりとした姿勢で、厳しく対応する。実戦で必要な最低限度の自らの生活や態度に致しても常に高い意識を持ち続ける必要がある。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することが出来ない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	100%	定期試験・提出課題によって評価		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 (口頭・実技)	0%			
平常点	0%				
<b>授業計画 (1回～15回)</b>					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	楽曲と音源のあらし1	著作権を持つ作詞者と作曲家、原盤権を持つ録音した人を理解します			
2回	楽曲と音源のあらし2	カバー音源の許諾。ネット配信などにおける取り扱いを理解します			
3回	楽曲と音源のあらし3	編曲家の存在とパブリックドメインを把握します			
4回	音楽史と著作権	音楽史の中で著作権で守られていることを理解します			
5回	音楽出版社の仕事	音楽業界での著作の仕事、音楽出版社の仕事内容を理解します			
6回	JASRACと権利分配1	ライブでの楽曲提供に関する場合の著作権とはを理解します			
7回	JASRACと権利分配2	カラオケビジネスに於ける著作権を理解します			
8回	レコード原盤権とは	レコード会社に於ける著作物に関する仕事内容を理解します			
9回	著作者人格権について	著作者が著作物に持つ人格的利益について理解します			
10回	著作権侵害とフェアユース	無断利用や著作権侵害にあたらぬ場合などを理解します			
11回	映画の著作権	映画製作時に於いて発生する権利を理解します			
12回	絵画・美術品の著作権	絵画・美術品に於ける著作権を学び、把握します			
13回	後期試験対策	今までに学んだことをまとめ、理解する			
14回	海外に於ける権利関係	日本と海外に於ける権利関連の差を学び、把握します			
15回	権利が与える社会へのこと	社会の中で何故必要かを講義を振り返りながら考え、理解します			